



令和5年度 港区立白金小学校 学校経営計画

令和5年4月1日 校長 高山直也

1 教育目標

個性的で創造的な行動と協調的で愛情ある行動ができ、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる人間を育てる。このために、次の合言葉を定め、児童・保護者・地域が誇れる学校づくりを推進する。

(合言葉) 自分をみつめ まわりもみつめ
ひとを生かし 自分も生かし
めあてをもって 努力を続ける

港区が目指す子供の姿

「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子供」

港区は、目指すべき子供の姿を掲げ、生涯にわたり自ら学び続ける意欲を養い、新たな価値を創造する、将来を担う人づくりに取り組みます。

2 目指す学校像

日本一の学校～プラチナプライドをもって～

本校は開校148年目になる伝統と歴史のある学校である。地域の方や保護者は、白金小学校は昔からの名門であり、伝統を大切にするとともに常に先進的な教育活動を行っているという誇りがある。そして、未来を切り拓き、これからの社会をひいては国際社会を支える人材を育てる学校であるという強い思いがある。そこで、その期待に応えるのはもちろんのこと、これまでの白金小学校以上の学校を創り上げる。教職員が白金小の誇り（プラチナプライド）をもって、地域・保護者と連携し、白金小学校を日本一の学校にしていく。

愛で溢れる学校

教育目標の中に「協調的で愛情ある行動」とある。人とのかかわりが希薄になっている、コミュニケーション能力が低下している、相手の立場を考慮することができないなどと言われている今、集団生活の中で良好な人間関係を構築し、人への思いやりや人権感覚をもつことが重要である。そして、お互いに好きになって尊重し合える人になってほしい。そうすれば愛であふれる学校になることができる。

また、人に対してだけでなく、伝統ある校舎や教材教具等についても愛情をもち、大切に使おうとする気持ちを醸成していく。

3 中期的経営目標と方策

日本一の学校、愛であふれる学校を目指して、「人権尊重と豊かな心情」「深い学びによる自己実現力」「国際人としての資質」を児童に育てるべき資質能力として設定した。

(1) 人権尊重と豊かな心情

- 相手を思いやり、協調的で愛情のある行動をとるとともに、公正公平に行動できる児童を育成する。
- 倫理観や規範意識、公共の精神などの道德心を身に付けた児童を育成する。
- 美しいものや優れたものに対して素直に感動する児童を育成する。

(2) 深い学びによる自己実現力

- 基礎学力を確実に身に付けるとともに、自ら学び、課題を見付け解決することのできる児童を育成する。
- 自ら学びに向かい、対話を通して新しい価値を創造することのできる児童を育成する。
- 自らの成長に関心をもち、健康な体づくりを意識して豊かなスポーツライフを実現する児童を育成する。
- 情報モラルを含む情報活用能力を身に付ける児童を育成する。

(3) 国際人としての資質

- 国際科の学習を通して、外国語に親しむ態度を養うとともに、多様性を尊重し、他者と共生・協働することができる児童を育成する。
- 我が国の伝統や文化の理解や体験を通して、国や地域を愛する児童を育成する。
- 自分の思いや考えを表現できるコミュニケーション能力を高めるとともに、自己肯定感の高い児童を育成する。

(4) その他

- 合唱団を特設クラブとして学校組織に位置付け支援するとともに、音楽活動を伴う特別活動を充実させる。
- PTA役員をはじめとした保護者と連携して、児童の健全育成に努める。

4 令和5年度の重点目標

中期的経営目標を踏まえるとともに、令和4年度の学校評価アンケート及び児童の実態から今年度の重点目標を以下のように設定した。

～日本一の学校、愛であふれる学校を目指して～

- ☆「いじめは絶対に許されないこと」ということはもちろん、相手を思いやるやさしい気持ちを醸成する。
- ☆自ら課題を見付け、解決するとともに、自分の思いや考えをしっかりと表現できる力を育む。

☆体育・食育の授業改善を図るとともに、休み時間や放課後遊びで体力向上を意識した意図的な取組を推進する。

☆SDG s の目標に向けて、児童が自分のこととして捉える意識を醸成する。

5 資質能力を育成するための環境整備

資質能力を育成するためには教育内容の充実を図るとともに、学習を支える教育環境を整備することが大切である。教育環境とは、施設や設備だけではなく、児童にかかわる教員の指導力、家庭や地域との連携、外部人材の活用、また、教育活動を支援するシステムなども含まれる。

(1) 自覚と指導力のある教職員の育成

児童を教え導く教師の人格や力量こそ、児童の学びへの意欲を培い、一人ひとりの可能性を伸ばすための大きな要因となる。さらに、一人の教員の力では解決できない困難な問題でも、複数の教員が組織的に対応すれば解決できる場合が多くある。

- 学校の教育力向上を目指し、教職員の資質向上、組織的対応を進める。
- 白金スタンダードの徹底だけでなく、学級担任という意識ではなく、副担任を含めた学年全体で児童を指導していくという意識を醸成する。
- 管理職による日常の授業観察や校内研究を通して授業力の向上を図る。
- 学力向上委員会を中心に、授業スタンダード（授業の進め方の基本）を作成するとともに、チームズを活用した授業公開を行う。
- 様々な課題について、学年、校内委員会などの組織で対応するシステムを定着させる。
- 教科担任制、学年担任制、1年生特別学級編成を推進する。

<指導のスタンス>

- ・白金スタンダードをもと、教職員が一致した指導を行う。
- ・常に、児童はどのように思っているのか、子供たちはなぜそのような行動をとったのか、など児童の立場を考え指導する。
- ・人権尊重の視点に立った言動を心掛け、体罰・暴言等は絶対に行ってはならない。
- ・児童のことを考え、ダメなことはダメという毅然とした指導を行う。
- ・児童に自らの行動を振り返えらせ、これからの生活や行動を考えさせるような指導を行う。
- ・児童の情報及び指導内容については、校内で情報共有し、組織的に対応する。

(2) 保護者・地域との連携強化

学校の教育活動を積極的に公開し説明するとともに、保護者や地域の方との情報の共有に努める。今年度よりコミュニティスクールとして、学校運営協議会を設置し、よりよい学校運営を目指す。

- 保護者会の実施方法を工夫し、担任と保護者、保護者同士が意見交換のできる場とする。
- 学校の教育活動を学校だよりやホームページ、Twitter で積極的に発信する。
- 支援地域人材、企業等、地域の方を授業で積極的に活用する。
- 交通安全をはじめとする安全指導において、学校・保護者・地域で連携しながら児童を見守っていく。
- 年間4回の学校運営協議会を開催し、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指す。

6 教職員の働き方改革

児童と向き合う時間の確保や授業準備の時間のため、教職員の健康の保持増進のため、働き方改革を推進する。

- (1) Teams を活用していつでも教職員間で連絡事項を共有できるようにしたり、教材の共有を推奨し教材研究の時間を削減したりすることで、効率的に業務を遂行できるようにする。
- (2) 積極的な休暇取得の推奨（平日に休暇を取るプラチナホリデーの実施）や通勤時間の目標設定等を行うことで、ライフワークバランスを改善する。
- (3) 年間3回のオンライン授業を活用して、休暇の習得や研修会への参加を推進する。

7 取組の報告及び評価

- (1) 今年度の取組状況については、保護者や地域の皆様に以下の方法で報告する。
 - 学校だよりに掲載する。
 - ホームページで公表する。
 - 授業参観、学校公開日に特色ある教育活動について紹介する。
 - 学校運営協議会で報告する。
- (2) 目標達成についての評価は、以下の方法で実施する。
 - 教員による内部評価を実施する。
 - 保護者アンケートを実施する。
 - 学校運営協議会による評価を実施する。
 評価結果は、整理し考察を加え、年度末に保護者や地域の皆様にお知らせする。